

災害廃棄物処理計画策定支援事業について

○ 目的

北海道ブロック自治体の災害廃棄物処理計画策定率の向上

○ 北海道内市町村の災害廃棄物処理計画策定状況

自治体数	策定自治体数	未策定自治体数	策定率
179	23	156	13%

道内では、市町村の処理計画の策定率は
23/179(13%)

※令和3年1月末時点

○ 実施内容・検討内容

	内 容	
項目	勉強会 1回	ワークショップ 3回
時間	概ね2時間以上	概ね3時間以上
対象	振興局担当者、自治体担当者 対象振興局:空知、渡島、上川、十勝、根室	
形式	対面(座学)	対面+Web(グループ討議)

○ ワークシート(北海道版)について

市町村災害廃棄物処理計画
策定ワークシート

【北海道版】

令和2年〇月

この「ワークシート」は、市町村災害廃棄物処理計画の策定支援のために作成したものであり、計画に盛り込むべき事項等を提示していますので、市町村で災害廃棄物処理計画を策定する際の参考とし、地域の実情などを十分に反映した計画としてください。

- 市町村が特に検討しなければならない箇所を明示
- 北海道災害廃棄物処理計画との整合
- 振興局との連携
- 基礎的数値の推計方法は各市町村の状況に合わせて採用できるように複数示す
- 北海道特有の事項を記載
- 必要事項を記入すれば計画素案が完成する仕様

自治体に北海道版ワークシート(Wordデータ)を提供

⇒勉強会・ワークショップを通じて ワークシートを作成＝骨子案を作成

○ ワークシート(北海道版)について

目次

1 編 総則	1
1 章 背景及び目的	1
2 章 本計画の位置づけ	1
3 章 基本的事項	3
(1) 対象とする災害	3
(2) 対象とする災害廃棄物	4
(3) 災害廃棄物処理の基本方針	5
(4) 処理主体	5
(5) 地域特性と災害廃棄物処理	6
(6) 教育訓練・研修	7
2 編 災害廃棄物対策	8
1 章 組織体制・指揮命令系統	8
(1) 市町村災害対策本部	8
(2) 災害廃棄物対策の担当組織	8
2 章 情報収集・連絡	12
(1) 市町村災害対策本部との連絡及び収集する情報	12
(2) 国、道、都府県等との連絡	13
(3) 道との連絡及び報告する情報	16
3 章 協力・支援体制	17
(1) 自衛隊・警察・消防との連携	17
(2) 市町村等、道及び国の協力・支援	17
(3) 民間事業者団体等との連携	19
(4) ボランティアとの連携	20
(5) 災害廃棄物処理の事務委託、事務代替	21
4 章 住民等への啓発・広報	22
5 章 一般廃棄物処理施設等	23
(1) 一般廃棄物処理施設の現状	23
(2) 仮設トイレ等し尿処理	25
(3) 避難所ごみ	28
6 章 災害廃棄物処理対策	30
(1) 災害廃棄物処理の全体像	30
(2) 発生量・処理可能量	31
(3) 処理スケジュール	35
(4) 処理フロー	36
(5) 収集運搬	39
(6) 仮置場	39
(7) 環境対策、モニタリング	46
(8) 損壊家屋等の撤去（必要に応じて解体）	48
(9) 選別・処理・再資源化	50
(10) 最終処分	52
(11) 広域的な処理・処分	53
(12) 有害廃棄物・適正処理が困難な廃棄物の対策	53
(13) 津波堆積物（津波の被害の可能性のある市町村）	55
(14) 水害による廃棄物への対応	56

(15) 思い出の品等	57
(16) その他地域特性のある災害廃棄物処理対策	58
7 章 災害廃棄物処理実行計画の作成	60
8 章 処理事業費等	61
9 章 災害廃棄物処理計画の見直し	62

◆目次の凡例

赤文字：特に加筆・修正が必要な項目

◆本文中の凡例

○○○：加筆・修正が必要な箇所

※赤文字以外の箇所についても、市町村の実情に合わせて適宜加筆・修正して下さい。

赤文字の項目：

特に自治体で加筆・修正が必要な項目

○ ワークシート(北海道版)について

3章 基本的事項

(1) 対象とする災害

本計画では、地震災害及び水害、その他自然災害を対象とする。本市(町村)では、表

●に示す被害が想定されている。

表● 想定する災害(地震)

項目	内容		
● 想定地震	○○地震	○○地震	
最大震度	○○	○○	
建物被害	全壊	○○棟	○○棟
	半壊	○○棟	○○棟
	床上浸水	○○世帯	○○世帯
	床下浸水	○○世帯	○○世帯
	焼失:木造	○○棟	○○棟
	焼失:非木造	○○棟	○○棟
	津波浸水面積	○○m ²	○○m ²
避難者数	○○人	○○人	

表● 想定する災害(水害)

項目	内容	
● 想定水害	○○川	
建物被害	全壊	○○棟
	半壊	○○棟
	床上浸水	○○世帯
	床下浸水	○○世帯

貴市(町村)の地域防災計画等に基づいて、災害廃棄物処理計画で対象とする災害について記載してください。入手可能な情報に合わせて、適宜変更して下さい。

災害廃棄物対策指針 発生原単位

	液状化、揺れ、津波		火災焼失(全焼)	
	木造	非木造	木造	非木造
全壊(トン/棟)	117	161	78	107
半壊(トン/棟)	23	32	98	135
床上浸水(トン/世帯)	4.60	-	-	-
床下浸水(トン/世帯)	0.62	-	-	-
対象地震	南海トラフ巨大地震	首都直下地震	南海トラフ巨大地震	首都直下地震

災害廃棄物対策指針 発生原単位

津波堆積物	0.024	t/m ²
-------	-------	------------------

災害廃棄物対策指針 種類別割合

	液状化、揺れ、津波*		火災	
	木造	非木造	木造	非木造
可燃物	18%	8%	0.1%	0.1%
不燃物	18%	28%	65%	20%
コンクリートがら	52%	58%	31%	76%
金属	6.6%	3%	4%	4%
柱角材	5.4%	3%	0%	0%
対象地震	南海トラフ巨大地震	首都直下地震	南海トラフ巨大地震及び首都直下地震	

建物被害、浸水被害

	全壊棟数	半壊棟数	床上浸水	床下浸水	焼失:木造	焼失:非木造	津波浸水面積
	棟	棟	世帯	世帯	棟	棟	m ²
○○地震	5,500	15,000	0	0	0	0	0

災害廃棄物発生量

	全壊棟数	半壊棟数	床上浸水	床下浸水	焼失:木造	焼失:非木造	津波堆積物
	t	t	t	t	t	t	t
○○地震	643,500	345,000	0	0	0	0	0

種類別災害廃棄物発生量

	可燃物	不燃物	コンクリートがら	金属	柱角材	津波堆積物	合計
	t	t	t	t	t	t	t
○○地震	177,930	177,930	514,020	65,241	53,379	0	988,500

種類別災害廃棄物発生量

	単位 1000						
	可燃物	不燃物	コンクリートがら	金属	柱角材	津波堆積物	合計
	千t	千t	千t	千t	千t	千t	千t
○○地震	177.9	177.9	514.0	65.2	53.4	0.0	988.5

自治体の実情に合わせて修正

推計が必要な項目には計算シートを用意

○研修概要

○:座学、●グループ討議

振興局	空知	渡島	上川	十勝	根室
勉強会	R2.11.26	R2.11.24	R2.11.18	R2.12.25	R2.12.21
	○災害廃棄物処理計画策定の重要性について ○災害廃棄物処理計画とは ○近年の災害の特徴 ○ワークシートについて			○災害廃棄物処理計画策定の必要性について ○災害廃棄物処理計画と発災後の対応について ○ワークシートについて	
第1回 ワーク ショップ	R2.11.26	R2.11.24	R2.11.18	R2.12.25	R2.12.21
	○初動・仮置場について ●初動・仮置場について ・アンケート			○対象とする災害 ○基礎的数値の推計方法 ●仮置場について ・アンケート	
第2回 ワーク ショップ	R3.2.4	R3.2.3	R3.2.2	R3.2.9	R3.2.10
	○前回WSの補足と振り返り ○行政や民間との連携、情報の収集・集約・発信、支援体制 ●連携 ●情報の収集・集約・発信			○問合せ事項等の情報共有 ○協力・支援体制、啓発・広報、災害廃棄物処理対策 ●初動対応 ●自治体内の体制	
第3回 ワーク ショップ	R3.2.25(予定)	R3.2.15	R3.2.26(予定)	R3.3.5(予定)	R3.3.1(予定)
	○広域処理、処理困難物への対応、施設の被災・停電 ●処理先の確保 ●地域特性との対処			○問合せ事項等の情報共有 ○補足説明 ●広域連携	

災害廃棄物処理計画策定の必要性について

災害廃棄物処理の三原則(安全、スピード、費用への配慮)

災害廃棄物の処理は、被災した**市民の衛生環境や安全**を第一とし、**スピード**感を持って処理にあたることが重要です。また、適切な分別を行う等、**費用**にも配慮しなければ、処理負担が自治体の財政を圧迫する事態にもなりかねません。

最終処分場の残余年数を考慮し、リサイクル率を高める努力が必要であり、**分別・リサイクルを推進**することは、安全・スピード・費用負担の改善に繋がります。

安全

- 被災した市民の衛生環境や安全を第一に。
- アスベストを含む廃棄物や**危険物・有害廃棄物等**(スプレー缶、薬品、灯油等)は、安全に十分配慮しながら丁寧な処理が必要。

スピード

- 周辺の環境や住民の健康に**著しい悪影響**を及ぼしている場合(例: 腐敗性の廃棄物、発火の恐れがある廃棄物等)は、スピード重視で処理を行う必要があります。

災害廃棄物の処理の三原則

費用

- 災害廃棄物処理計画の作成等、災害が起きる前に対策を進めておくことは、被災地域の**経済的負担を軽減**することにつながります。
- これら多額の予算を執行するためには、**膨大な量の事務作業が発生**しますので、早めに必要な人員を確保することも重要です。

5

災害廃棄物処理計画策定の必要性

災害が起きた直後、役所は必ず忙しい!
(被災者対応・避難所運営など**膨大な作業**)

↓

役所内では幹部を含め全員が忙しく、大混乱

↓

そのような状況の中

- ・ 仮置場をどこにするか・分別をどうするか・収集運搬をどうするか
- ・ 人の配置をどうするか・住民への周知をどうするか など

一から決めていく事は困難!

↓

でも、ごみは待ったなしで出てくる!

↓

災害時に速やかに行動するためには事前の備え(災害廃棄物処理計画の策定)が必要



対象災害及び基礎的数値の算出方法について

■ 避難所ごみ発生量の推計

演習問題

A市の地震被害想定での避難所避難者数は、10,000人でした。
A市の平時のごみ発生原単位は800g/人・日とします。
避難所ごみの発生量を推計してください。

推計方法

$$\text{避難所ごみの発生量} = \text{避難者数(人)} \times \text{発生原単位(g/人・日)}$$

災害廃棄物処理計画を策定する場合は、各市町村の最新の1人1日当たりのごみ発生原単位を用いて推計してください。

推計結果

$$\boxed{10,000} \text{ (人)} \times \boxed{800} \text{ (g/人・日)} = \boxed{8.0} \text{ (t/日)}$$

8,000,000 (g/日)

■ 災害廃棄物発生量の推計

演習問題

A市の地震による家屋被害は全壊5,500棟、半壊15,000棟でした。
(火災焼失、津波浸水の被害なし)
災害廃棄物発生量を推計してください。
ただし、南海トラフ巨大地震の発生原単位を使用してください。

推計方法

	液状化、揺れ、津波		火災焼失(全焼)	
	南海トラフ巨大地震	首都直下地震	南海トラフ巨大地震	首都直下地震
全壊	117トン/棟	161トン/棟	木造:78トン/棟 非木造:98トン/棟	木造:107トン/棟 非木造:135トン/棟
半壊	23トン/棟	32トン/棟	—	—
床上浸水	4.60トン/世帯	—	—	—
床下浸水	0.62トン/世帯	—	—	—
対象地震	南海トラフ巨大地震	首都直下地震	南海トラフ巨大地震	首都直下地震

推計結果

$$\boxed{5,500} \text{ (棟)} \times \boxed{117} \text{ (t/棟)} = \boxed{643,500} \text{ (t)} \dots \textcircled{1}$$

全壊棟数 発生原単位

$$\boxed{15,000} \text{ (棟)} \times \boxed{23} \text{ (t/棟)} = \boxed{345,000} \text{ (t)} \dots \textcircled{2}$$

半壊棟数 発生原単位

$$\boxed{643,500} \text{ (t)} + \boxed{345,000} \text{ (t)} = \boxed{988,500} \text{ (t)}$$

① ② 災害廃棄物発生量



○グループ討議

○上川総合振興局 第1回ワークショップ グループ討議結果 テーマ: 処理計画の基礎的な事項

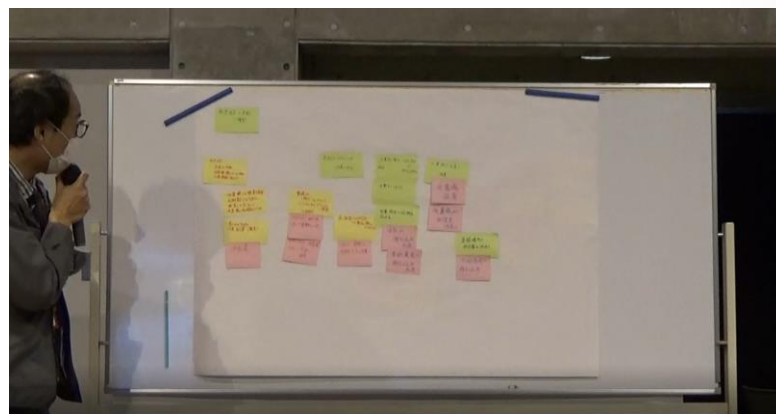
発災後の対応	災害廃棄物処理計画に記入すべき事項
<p><災害廃棄物の初動対応において重要な事項></p> <p><仮置場の設置・運営において重要な事項></p>	<p><初動対応></p> <ul style="list-style-type: none">・被災範囲・被害世帯数、被害状況を対策本部へ確認。 <p><仮置場の設置></p> <ul style="list-style-type: none">・ボランティア受け入れルール作り。・受付のプレハブ確保。・作業員の食糧確保。・仮置場に仮設トイレの設置。 <p><仮置場の運営></p> <ul style="list-style-type: none">・分別ルールを決める。



○上川総合振興局 第2回ワークショップ グループ討議結果

テーマ:自治体内の課題

発災後の対応	災害廃棄物処理計画に記入すべき事項
<p data-bbox="112 304 676 392"><行政と民間との連携において重要な事項></p> <p data-bbox="112 606 676 695"><片付けごみの排出において重要な事項></p>	<p data-bbox="741 304 1159 335"><行政と民間との連携></p> <ul data-bbox="741 349 1468 492" style="list-style-type: none">・行政と民間の行動可能な人員数を確認。・通常業務の継続の可否の確認。・警備会社に仮置場の警備を依頼。 <p data-bbox="741 556 1139 588"><片付けごみの排出></p> <ul data-bbox="741 606 1680 799" style="list-style-type: none">・長期戦にそなえ、職員のローテーションの決定。・高齢者そのほかの自力で排出困難な住民への対応方法。・集積所(仮置場)の利用者を決める。



○空知総合振興局 第1回ワークショップ グループ討議結果

テーマ: 処理計画の基礎的な事項

発災後の対応	災害廃棄物処理計画に記入すべき事項
<p>＜災害廃棄物の初動対応において重要な事項＞</p> <p>＜仮置場の設置・運営において重要な事項＞</p>	<p>＜初動対応＞</p> <ul style="list-style-type: none">・災害対策本部へ仮置場周辺の被災状況を確認し、使用可能の可否を判断する。 <p>＜仮置場の設置＞</p> <ul style="list-style-type: none">・仮置場設置開始までのスケジュール管理(いつ、何を、どのように)。 <p>＜仮置場の運営＞</p> <ul style="list-style-type: none">・自主防災力の向上に向けた取組みの中で基本的なルールを事前に共有しておく。



○空知総合振興局 第2回ワークショップ グループ討議結果

テーマ:自治体内の課題

発災後の対応	災害廃棄物処理計画に記入すべき事項
<p data-bbox="108 301 680 394"><行政と民間との連携において重要な事項></p> <p data-bbox="108 451 691 544"><片付けごみの排出において重要な事項></p>	<p data-bbox="730 301 1174 339"><行政と民間との連携></p> <ul data-bbox="730 351 1702 544" style="list-style-type: none"><li data-bbox="730 351 1702 444">・土木業・建設業など廃棄物処理業以外の業者の協力可否を確認する。<li data-bbox="730 451 1692 544">・各郵便局との連携(市民とのつながり)→情報伝達を依頼する。 <p data-bbox="730 608 1145 646"><片付けごみの排出></p> <ul data-bbox="730 658 1696 851" style="list-style-type: none"><li data-bbox="730 658 1663 696">・広報誌、防災無線で日頃から情報を流し周知する。<li data-bbox="730 708 1696 801">・収集日は、被害のない地区は通常の日程で収集。被害大地区は臨時収集する。<li data-bbox="730 808 1244 851">・被災程度により区割りする。



○渡島総合振興局 第1回ワークショップ グループ討議結果

テーマ: 処理計画の基礎的な事項

発災後の対応	災害廃棄物処理計画に記入すべき事項
<p>＜災害廃棄物の初動対応において重要な事項＞</p> <p>＜仮置場の設置・運営において重要な事項＞</p>	<p>＜初動対応＞</p> <ul style="list-style-type: none">・廃棄物処理施設の担当者に処理能力の状況について確認する。 <p>＜仮置場の設置＞</p> <ul style="list-style-type: none">・仮置場の開設日、開設時間を決定し、庁内(災害対策本部)へ周知。住民へも周知する。 <p>＜仮置場の運営＞</p> <ul style="list-style-type: none">・仮置場の運営、職員・ボランティア→(無理なら)→産廃業者等に委託する。



○渡島総合振興局 第2回ワークショップ グループ討議結果

テーマ:自治体内の課題

発災後の対応	災害廃棄物処理計画に記入すべき事項
<p data-bbox="108 301 683 394"><行政と民間との連携において重要な事項></p> <p data-bbox="108 451 693 544"><片付けごみの排出において重要な事項></p>	<p data-bbox="730 301 1174 339"><行政と民間との連携></p> <ul data-bbox="730 351 1715 494" style="list-style-type: none"><li data-bbox="730 351 1715 444">・マスコミに仮置場の場所、使い方について広報を依頼する。<li data-bbox="730 451 1528 494">・一廃許可業者に仮置場の運営を依頼する。 <p data-bbox="730 554 1147 592"><片付けごみの排出></p> <ul data-bbox="730 604 1696 851" style="list-style-type: none"><li data-bbox="730 604 1696 696">・解体ごみは、可燃、不燃、コンクリートガラ、金属に分けて仮置場に運ぶよう収集業者に周知する。<li data-bbox="730 704 1644 746">・勝手仮置場ができないようにパトロール巡回する。<li data-bbox="730 753 1489 796">・ハザードマップにも仮置場をプロットする。<li data-bbox="730 803 1354 851">・家庭ごみの集積場所を指定する。



○渡島総合振興局 第3回ワークショップ グループ討議結果

テーマ:連携等の広域的課題

発災後の対応	災害廃棄物処理計画に記入すべき事項
<p>＜処理先の確保において重要な事項＞</p> <p>＜地域特性とその対処方法において重要な事項＞</p>	<p>＜処理先の確保＞</p> <ul style="list-style-type: none">・道庁を介して、他の自治体の仮置場が使えるか打診する。・JRや海運会社に輸送の可否を打診する。・道外の処理施設の使用可否の道庁への確認。 <p>＜地域特性とその対処方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">・津波の泥や塩を含んだ廃棄物の処理方法。・水産物を入れる大型冷蔵庫等の処理方法。・水産物の養殖用の資材の処理方法。・船などの処理。



○十勝総合振興局 第1回ワークショップ グループ討議結果

テーマ:仮置場について

発災後の対応

<仮置場の設置・運営>

- ・候補地選定
- ・候補地状況確認
- ・区画分け
- ・管理者の設置

<住民対応>

- ・住民周知(仮置場の場所、ごみの捨て方)
- ・自分で搬入できない住民への対応(収集運搬)

<組織対応>

- ・役場内の連携、情報共有
- ・職員の配置人数

<その他>

- ・業者への業務委託の検討、準備
- ・重機の確保
- ・仕様書作成(管理委託)

災害廃棄物処理計画に記入すべき事項

- ・仮置場の目的
- ・仮置場の分類(一次、二次)
- ・仮置場の選定
- ・確認及び決定
- ・候補地一覧
- ・災害廃棄物の種類
- ・分別ルールの策定
- ・仮置場内の配置図
- ・処理フローの策定

- ・住民への周知方法(広報など)
- ・廃棄物の排出ルール
- ・自主搬入の方法

- ・関係課部局の連絡体制
- ・庁内連携の方法

- ・関係団体との連携
- ・確認事項
- ・スケジュール



○十勝総合振興局 第2回ワークショップ グループ討議結果

テーマ:初動対応、自治体内の体制

発災後の対応	自治体内の体制	平時の対策
<ul style="list-style-type: none"> <情報収集> ・職員の安否確認 ・被害状況の確認 <収集・運搬> ・ごみ発生量の調査・確認 ・収集体制の決定 ・廃棄物の分別の決定 <協力体制> ・応援要請 ・民間との協力体制 ・社会福祉協議会(ボランティア)との連携 <仮置場> ・仮置場の調整・選定 ・運営方法の決定 ・担当者の選定 ・分別看板の設置 <住民対応> ・住民への周知 <受入側> ・受入可能量の確認 ・道路状況の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策本部との連携 ・運搬ルートの確保 ・収集・運搬車両の借り上げ等の調整 ・各種団体、企業、協定先との連携・調整 ・域外の施設との連絡調整 ・仮置場における土地所有者との調整 ・仮置場管理・人員不足等の応援 ・災害ボランティア(社協)との調整 ・広報担当部局との協力 ・問合せ対応マニュアル共有 ・HP、SNS周知、車輛での広報 ・複合事務組合との情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害状況確認 リスト化 ・協力先の確保 ・候補地リスト ・レイアウト ・周知原稿用意 ・会議等 ・防災訓練での研修



○根室総合振興局 第1回ワークショップ グループ討議結果

テーマ:仮置場について

発災後の対応	災害廃棄物処理計画に記入すべき事項
<p><設置></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地の確認(行けるか、置けるか) ・選定 ・使用地区の割振り <p><周知></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮置場の位置を広く周知する <p><分別方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・分別を意識した配置 ・各山の廃棄物の種類を決める <p><人員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要人数の洗い出し ・人員配置の決定 ・仮置場内の誘導、分別の管理者を各1名以上置く <p><運用方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話問い合わせへの対応マニュアルを作る ・受付簿を作る ・受入時間を決める <p><資機材></p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷鉄板の必要性を判断する ・看板を手配 	<p><開設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発災後の仮置場選定、確認 ・仮置場の位置 <p><周知></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報、周知手法及び内容 ・周知方法 周知項目 <p><運用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運用方針 ・仮置場内のレイアウト ・収集方法(そもそも個人搬入させるのか) ・門番、誘導の担当班 ・種別毎の処理方法(どこへ持って行くのか) ・委託先候補



○根室振興局 第2回ワークショップ グループ討議結果

テーマ:初動対応、自治体内の体制

発災後の対応	自治体内の体制	平時の対策
<p><情報収集></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の確認 ・収集ルートの確保 ・ごみ処理施設の状況確認 <p><必要な資材確保></p> <ul style="list-style-type: none"> ・車輛や機材の確認 ・避難所の人数確認、仮設トイレの設置 <p><組織・協力体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・指揮命令系統・人員体制の確立 ・協力、支援体制の確立 ・ボランティア対応 <p><住民対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民対応の確認、統一 ・住民周知 ・分別周知 <p><仮置場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮置場の運用の確認、選定、周知 ・仮置場の設置 ・仮置場の管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・被災状況、避難所情報、ライフライン情報、道路情報の確認 ・仮置場確認 <ul style="list-style-type: none"> ・庁内体制の確立 ・対外折衝 ・協定の内容や協力体制の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・情報伝達、周知、啓発、広報 <ul style="list-style-type: none"> ・運用状況 ・搬入可否 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練(情報の一元化、共有を予行) <ul style="list-style-type: none"> ・災害時を想定した定期的な点検 ・資機材対応業者の一覧化 <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練・机上シミュレーション(災害時の体制構築を予行) ・防災計画との整合 ・連絡体制の確認 ・連絡フロー構築 <ul style="list-style-type: none"> ・排出、分別方法の大枠を決める ・災害時の対応ルールを広報 ・周知手段の決定 <ul style="list-style-type: none"> ・候補地の事前選定・定期的な確認 ・物品の準備 ・分別内容の検討、レイアウトの検討

